

# 玖珠町・森中出身の大学生 アスリートら招くプロジェクト

## 第1弾・岩崎恭子さん講演

1992年のバルセロナ五輪女子200m平泳ぎで金メダルを獲得した岩崎恭子さん(39)が28日、玖珠町の森中学校で講演した。同校を卒業した大学生が企画したプロジェクトの第1弾。8月までに計3回の予定でアスリートらを招き、スポーツの楽しさや人生のヒントを伝える。



講演する岩崎恭子さん(右)とプロジェクト責任者の秦絵莉香さん＝玖珠町

# 人生のヒント伝える

企画したのは明海大学(千葉県、埼玉県)4年の秦絵莉香さん(21)ら2人。これまで町内の中学校にプールはなかったが、来春開校予定の統合中学校「くす星翔中学校」にできることを契機に、アスリートの生きざまに触れる機会を提供し、子どもたちの今後の人生に生かしてもらおうと考えた。同大学浦安キャンパス同窓会に提案し、支援金100万円を受けた。

講演には2年生ら約120人が参加。岩崎さんは金メダル獲得後、過剰な注目に苦悩して不調が続き、一時は競泳を嫌いになった体験を披露。「人にどう思われてもいい。

## 「行動力、思考力を磨いて」



森中学校2年生ら約120人が参加した

私がしっかり取り組めば身近な人は気付いてくれる」と考え、再び競泳に向き合うことを決めたという。

水泳を楽しむことを思い出した後は猛練習を重ね、96年のアトランタ五輪に出場。10位に終わったが、「五輪は自らを成長させてくれた。アトランタ五輪までの経験は今でも自信となっている」と振り返り、「悩んだり、つらいと思うのはまだ頑張れる時期だということ。行動力と自ら考える力を磨いて成長を続けてほしい」とエールを送った。

合谷翼さん(14)は「自ら何をしたいかを考え、行動を起こしていきたい」と話した。(白石宗史)